



秋津東小だより

令和4年度10月号

令和4年10月3日

東村山市立秋津東小学校

〒189-0001 東村山市秋津町 4-35-11

TEL.042-391-8191 FAX.042-397-5411

URL <https://www.fureai-cloud.jp/e12-akitsuhighashi/>

頑張りたい気持ち・頑張れない気持ち

校長 織茂 直樹

2学期が始まって1か月、学校は運動会に向けた練習が進行中で、子供たちの歓声や演技のBGMが響く毎日です。今年の運動会は昨年同様に全校の児童・保護者が一堂に会する形で実施します。詳細は別途お知らせを配布しますが、観覧席は、シート・イスなしの立ち見で、出場学年は優先観覧スペースの入れ替え制とします。少々不自由ですが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、子供たちは運動会の練習の他にも、日々様々に頑張っているのですが、その姿を見ていると、頭の片隅にこんな言葉が浮かんでくることがあります。『一生懸命努力して頑張れば必ずできる』…この言葉は否定しがたい真理のようではありますが、何となくモヤモヤした感覚を抱く人もいないのでしょうか。「やればできる、努力すれば報われる」と言われて、実際にやってみてできるようになる子や、やる気が出て努力し報われる子もいるでしょうが、私たちが忘れがちなのは、できない子・頑張れない子もいる、ということです。私たちはよく「頑張っている人・努力している人・やる気のある人を応援する」と言いますが、それは裏返すと「そうでない人は応援しない」というメッセージにもなります。実際に応援が必要なのは、頑張れる人ではなく、頑張れない人の方であるのに、逆のことを言ってしまうのです。こうになってしまうのは、言葉をかける側にも「本気でやればできないはずがない」「努力すれば報われないことはない」といった思い込みがあるからなのではないのでしょうか。

「やってみたい・頑張りたい」という気持ちは自己実現の欲求です。心理学者マズローが提唱した欲求の5段階説によると、自己実現の欲求は、生理的欲求・安全の欲求・社会的な所属と愛情の欲求・承認の欲求の4つが満たされた上で生じる最上位の欲求です。4つの欲求が満たされているという土台がない

場合、頑張れないのは単なる気持ちの問題ではなく、頑張れという言葉が逆に相手を傷つけたり追い詰めたりすることもあります。

最近では「できなくてもいい・頑張らなくてもいい」と言われるようになってきました。しかし、人は何をするにも何らかの形で努力して頑張らないと生きてはいけません。

「頑張らなくてもいい」という安易な言葉かけは、解決すべき課題をどんどん先送りしてしまいます。今できることもさせないのは、子供の可能性を潰し、新たな困難を生じさせてしまう恐れがあります。「計算は苦手だけど漢字は得意」という子には、計算を頑張らせる必要はないのでしょうか。できない・頑張れないように見える子は、実は大人以上にそのことを気にしており、本当はみんなと同じようにできるようになりたいと思っています。やってもできないことを強制したり、過剰な期待や負担をかけ無理をさせたりすることは、心身に苦痛を与える虐待ですが、頑張らせないことも放任という一種の虐待です。

また、「褒める教育」がよいといわれますが、それだけで問題は解決しません。勉強が苦手な子に勉強そのものの支援をせずに、それ以外のことを褒めても、根本的な解決にはなりません。週に4日忘れ物をする子に、1日は忘れ物をしなくてエライと褒めても、残りの4日忘れ物をするという問題は、忘れ物をしないための手立てを講じなければ、本人にとっての本当の解決には繋がりません。褒めるということは、意味のある承認や評価を与えることで、見当違いの褒め言葉は、逆にやる気や成長の機会を奪うことがあります。

「頑張ること」について、子供たちに言葉かけをする際には、子供たちの気持ちへの丁寧な洞察と配慮が必要です。「頑張りたい気持ち」「頑張れない気持ち」それぞれの理解に努め、「頑張らない子」ではなく「頑張ろうとする子」を育てていきたいものです。